

第14回 日能研

文学コンクール

奨励賞

【論説文】 未来の日本を作る

田園調布学園中等部・三年

前田 琴音さん

作品に対する思い・感想

少子高齢化が深刻になってきている今、日本に必要な教育とは何なのか。子どもが少ない理由の原点は何なのか。それは私たちの恋愛に対する意識の低さかもしれない。

今回、この問題に対して自分なりの考えを述べることができました。評価していただきありがとうございます。

私は、今はない新しい教科として、恋愛についての授業を作りたい。理由は、日本での出生率が年々下がってきているからである。これには、若者が少なくなってしまう少子高齢化が影響しているのも事実だが、私は若者の恋愛に対する意識の低さが一番の原因だと思う。

現に、*Woman Insight*の記事によると、二十歳から二十四歳の方に「成人を迎えた当時、恋人はいましたか」というアンケートを取った際、「はい」と答えた人が五〇パーセント、「いいえ」と答えた人が五〇パーセントとほぼ同じだった。それに比べ、四〇歳以上の方に同じようにアンケートを取ったところ、「はい」と答えた人が六〇パーセント、「いいえ」と答えた人が四〇パーセントである。また、このアンケート結果は出生率とも比例する。一九二五年の出生率は五人を超えていたが、二〇一六年の出生率はなんと一・四四人までに低下しているのである。つまりここ約九〇年で、少なくとも出生率は三・五六人以上低下しているということだ。

結婚に関しては経済的な問題が原因になっているかもしれない。しかし、結婚に至る前の恋愛に対して、私は別の意見を持っている。私が思う原因としては、男女ともに異性に対してよりも、自分の趣味に時間を掛けたいという人が多くなってきたからだと思う。例えば、よくある話で、現実を見ずに画面上の二次元の異性に恋をしてしまったり、同じく現実を見ずにアイドルや俳優などに恋をしてしまったりすることだ。最近のスマートフォンアプリのゲームを見れば一目瞭然である。画面上の異性と交流して楽しむ、いわゆる乙女ゲームやギャルゲームで満足してしまっているのかもしれない。何もそれらのゲームを否定するつもりはないが、現実の異性にも目を向けて欲しいところだ。他にも原因として、結婚願望がないということもあるかもしれない。そういう人達の恋愛に対するモチベーションを上げるためにも、私は恋愛について学ぶことができる授業が今後必要になってくると思うのである。

具体的な授業の内容としては、共学の場合、相手を誘う練習や相手の気持ちを理解するための授業。女子校や男子校の場合、課外授業としてそれぞれ相手の学校に行き、誘い方や話しかけ方、きっかけの作り方を学ぶための授業だと良いと思う。また、これには倫理観や道徳的なものも重要である。だから、小学校で道徳についての授業を受けた後、中学校の授業としてこの授業を取り入れるのが妥当である。そして、高等学校ではもう少しハイレベルな、*LGBT*などに関する授業をし、様々な形の恋愛を学ぶ。

このように、今の日本には恋愛の授業が必要だ。恋愛に興味を持つことによって、結婚したいと思う人が増え、出生率も上がる。そして結果的に未来の日本を背負う後継者を生み出すことにつながるのである。恋愛について学校は何も教えてくれない。だから恋愛をしたいと思う人が減るのは当然のことだ。だからこそ、このような恋愛についての授業を受けさせることによって、少しでも日本の未来が明るくなれば幸いである。